

活 力 あ ふ れ 感 性 息 づ く 芸 術 文 化 の ま ち 尾 道

こ う ほ う  
**おのみち**

Onomichi City 平成27年(2015)

No.1001  
**2月号**

**祝 中国やまなみ街道(尾道松江線)  
3月22日(日)全線開通**



写真提供 国土交通省福山河川国道事務所

**特集 「囲碁のまち おのみち」  
～囲碁を活かしたまちづくり～**

### もくじ

#### 3 特集「囲碁のまち おのみち」 ～囲碁を活かしたまちづくり～

#### 6 暮らしの窓

農業委員会委員選挙人名簿の縦覧／交通ルールを守って事故のないまちづくり／清掃 ほか

#### 8 健康・福祉

予防接種／家族介護用品購入助成券／企業向け普及啓発セミナー／みつぎいきいきセンターの利用／高齢者の人やそのご家族の人、こんなことでお困りではありませんか ほか

#### 13 子育て

乳幼児健診・相談・講習会／おのみち子育て支援講座／おのみちファミリー・サポート・センター研修会参加者募集 ほか

#### 15 スポーツ

#### 16 芸術・文化

囲碁大会参加者募集／市立図書館臨時休館日のお知らせ／第33回尾道新人演奏会 ほか

#### 18 情報アラカルト

夜間通行止のお知らせ／百島航路へ就航するフェリーのお披露目／楽しく役に立つパソコン講座／市営住宅入居者募集／市有地の売却／第72回尾道みなと祭 ほか

#### 27 相談

#### 28 協働通信シリーズ⑩ 国勢調査調査員募集

### 今月の表紙



中国やまなみ街道(中国横断自動車道尾道松江線)は、残る未開通部分が世羅IC～吉舎IC間のみとなっていました。3月22日(日)に開通することになりました。

写真は尾道ジャンクション(中国やまなみ街道と山陽自動車道の分岐点)です。

### 3月22日(日)、中国やまなみ街道 (中国横断自動車道尾道松江線)が待望の全線開通!

中国やまなみ街道は、尾道市と島根県松江市を結ぶ、全長約137kmの高速自動車国道で、山陽、中国縦貫、山陰の各自自動車道とも結節し、広域的高速道路ネットワークの一翼を担う極めて有効な道路です。

今回の全線開通により、地域間の連携、交流の促進、物流効率化、観光振興などの地域経済の好循環が期待されます。

国政策企画課(☎0848-38-9316)

#### 市長コメント

私が8年前に中国横断自動車道尾道松江線建設促進期同盟会会長に就任以来取り組んでまいりました中国やまなみ街道(尾道松江線)が全線開通する運びとなり、心から嬉しく思っております。

大きな力となりました諸先輩による取り組みに感謝申し上げます、また力強く応援いただいた市民の皆様をはじめ、市議会、商工会議所、関係団体等の皆様に厚くお礼申し上げます。

今後は、尾道市が瀬戸内の十字路の起点都市として、姉妹都市である松江市とともに、さらなる中国地方の活性化に向けて取り組んでまいります。



### 新成人、誓いを新たに



1月11日、びんご運動公園メインアリーナで「平成27年尾道市成人式」が行われ、男性484人、女性462人、合計946人の新成人が参加しました。

式では、新成人代表の「二十歳の誓いの言葉」や小学生と一緒に「夏の日の贈りもの」の全員合唱などが行われました。

### トピックス-Topics-



#### 第94回 全国高校ラグビー大会ベスト4

第94回全国高校ラグビー大会で初めてベスト4まで勝ち進んだ尾道高校ラグビー部の選手たちが、1月8日、平谷市長を表敬訪問し、大会の報告を行いました。



#### 一年の豊作や無病息災を願って

1月11日、山波小学校で尾道市民俗文化財に指定されている「山波とんど」が行われ、地域の皆さんがとんどを担ぎ、はやしに合わせて練り歩き、最後は火がつけられました。

## 特集「囲碁のまち おのみち」～囲碁を活かしたまちづくり～



(第66回本因坊秀策囲碁まつり・第4回女流秀策杯決勝 星合志保初段対藤沢里菜女流本因坊)

尾道市では、囲碁を因島市(平成9年に囲碁を「市技」と制定)・豊田郡瀬戸田町と合併した平成18年に条例で「市技」と定め、囲碁によるまちづくりを進めています。本因坊秀策囲碁まつり・市民囲碁大会など囲碁イベントの開催をはじめ、公民館・学校・文化施設での囲碁教室の実施、囲碁記念館の開館・運営、碁ランテニア(=囲碁のボランティア)による囲碁交流などの活動を行っています。

☎文化振興課(☎0848-20-7514)

### 本因坊秀策とは・・・

幕末に活躍した天才棋士本因坊秀策は、文政12年(1829年)因島外浦町に生まれました。幼名を虎次郎といい、3・4歳のときには、碁石を与えればすぐに泣きやみ、黒白を並べて遊んだといわれています。

秀策は9歳の冬に江戸の本因坊家に入り、本因坊丈和の弟子になりました。11歳で初段の免許を得て15歳で四段の免許を得、18歳のとき大阪で井上幻庵因碩と対局しました。世にいう「耳赤の一手」(5頁参照)はこのときの一手を指し有名です。20歳で第十四世本因坊跡目になりました。21歳で將軍の御前対局である御城碁に初出仕しました。このときから12年間御城碁において19連勝で負けることがありませんでしたが、34歳という若さで他界しました。

秀策の布石は秀策流と称され、今日の対局においても見るができます。秀策の残した棋譜は450局以上、秀策の棋譜を並べると段が上がるといわれるほどで、プロ棋士の多くもその手筋に学び、一度は並べたことがあるといわれています。

秀策はその棋力と人格により碁聖と呼ばれています。



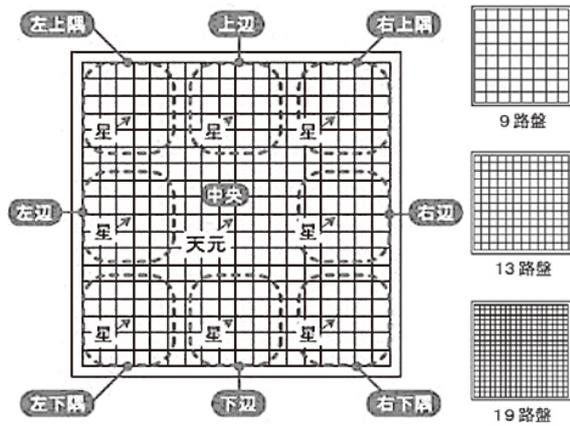
### 本因坊秀策囲碁記念館

本因坊秀策ゆかりの品々や囲碁に関する資料を保存・展示しています。開館時間等、詳しくは18頁をご覧ください。



# 囲碁の基本ルール【6つ】

## その一 碁盤の位置の名前

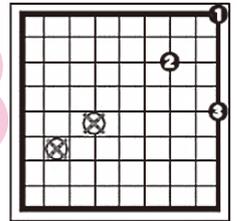


碁盤には、石を打った位置を示すための名前があります。ルールと合わせて一緒に覚えましょう！

## その二 石は線と線の交点に打つ！

碁碁では、碁盤に石を置くことを「打つ」といい、石は碁盤の線と線の交点に打ちます。隅や端も交点なので、石を打つことができます。

気をつけて！白石のようにマスの中や線の上には打てないよ。

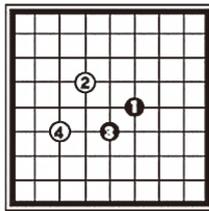


## その三 一度打った石は動かさない

一度打った石は、別の位置に打ち直すことができません。石から指が離れたら、打ったとみなされ、対局では一度打った石を動かして他のところに打ち直すと、反則で負けになります。どこに打つのが一番良いのか、ルール違反にならないように良く考えてから打ちましょう。

## その四 石は2人で交互に打つ

対戦する2人のプレイヤーのことを「対局者」といいます。対局を始める前に、まず白と黒のどちらの石を持つのかを決めます。石の色が決まったら、黒石を持つ人(先手)からスタートし、次に白石を持つ人(後手)と、2人が交互に打ちます。黒が打つときは黒番、白が打つときは白番といいます。



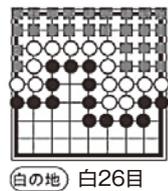
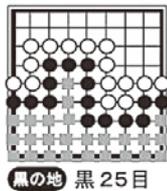
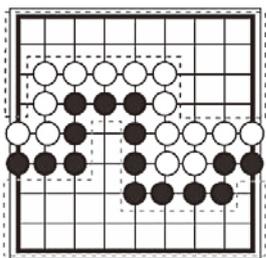
## 豆知識

### 対局の流れ

1. 2人が席について一礼する。
2. それぞれが使つ石を決める。
3. 石を交換する場合は交換し、碁盤の脇に碁筒を置く。
4. 「お願いします」と一礼する。
5. 対局。
6. 黒・白ともに打つ手がなくなったら、駄目(黒・白どちらの目にもならない無価値な点)をうめて、「終局」の意思を確認する。
7. それぞれの陣地を整理して数える(整地)。
8. 勝敗を確認する。
9. 石を碁筒の中に入れて、片つける。
10. 「ありがとうございました」と一礼する。

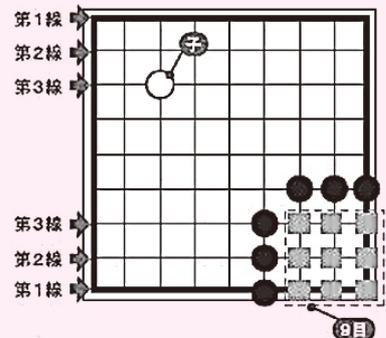
## その五 陣地が広い方が勝ち

碁碁の勝敗は、陣地の広さにより決まります。陣地のことを「地」といい、地の数を数えるときは「目」を使います。次の右図で、陣地の数え方を見ましょう。



1目差で白の勝ち!

## 地や石の数え方



「目」は地、「子」は石を数えるときに使います。碁盤の線は、端から第1線、第2線と数えます。

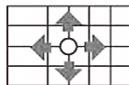
## その六 囲った石は取ることが出来る

碁碁では、相手の石を自分の石で囲むと石を取ることができます。「相手の石をどうやって取るのか」、「自分の石を取られないためにはどうするか」を考えることは、碁碁の面白さの一つです。

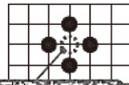
石を取るときのルールは、一つだけ。「石のまわりの道を行き止まりにする」ことです。縦と横を敵に囲まれてしまうと、身動きがとれなくなり、碁盤の上から追い出されてしまいます。これは碁碁の大切なルールなので、しっかり覚えておきましょう。



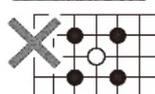
白石の道の全てを黒石が囲みました。



白石には縦と横、道が4つあります。



白石は道がなくなったので取られてしまいます。



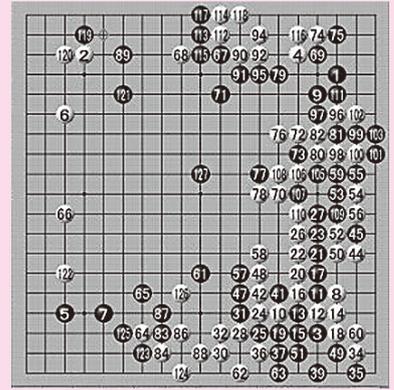
「囲う」とは、ななめの位置に石を打っても白石の道は消えていないので、囲ったことにはなりません。

## 耳赤の一手

囲碁愛好家の間で今でも語り継がれている一局に「耳赤の一手」があります。棋力が著しく伸び、その名も全国に響き渡るようになった秀策18歳の時の逸話です。

秀策は2度目の帰郷から江戸に帰る途中大阪に立ち寄り、当時準名人位(八段)として名をはせた井上幻庵因碩と対局します。勝負は中盤まで因碩が有利な形勢で進み、秀策が長考を重ね127手目を打ったその時「秀策の勝ち」を予言する男が現れます。その男は医師で、理由を尋ねる門人達に「あの一手で因碩師の耳が赤くなった。動揺し自信を失った証拠」と述べたそうです。

予言通り形勢は逆転し、秀策が勝利します。この一手は、秀策の気力と天分が凝縮した究極の一手だといわれています。



## 囲碁から 発した日常語

囲碁になじみがない人も、これらの言葉は聞いたことがあるのではありませんか。囲碁に語源を持つ言葉は、意外に多くあります。

- 奇手 → 奇想天外で思いもよらない着手。→ 意表外な行動、行為のこと。
- 玄人 → その道に熟達した本職、専門家。→ 反対語として「素人」がある。
- 勝負手 → すべてを懸けて行う思い切った手段、行為。→ 「勝負手を放つ」
- 一目置く → 自分よりすぐれた才能や技、芸に敬意を表し、一步譲ること。
- 局面 → 物事の成り行き → 「困難な局面を打開する」などと使う。
- 序盤 → 対局の初めに配石された場面 → 物事の初期の状況をいう。
- 先手 → 相手より好所に先回りすること。→ 「先手必勝」などという。
- 次の一手 → 次に打つ一手 → 次に続く手段や行為のこと。



囲碁のプロ棋士になるには、原則日本棋院または関西棋院で「院生」となり、定められた年齢までに、所定の成績を修める必要があります。昨年4月に、尾道出身として80年ぶりにプロ棋士となった関西棋院の飯田純也初段。関西棋院院生が入段できる期限は、男子の場合、18歳の誕生日を迎える年度末までです。過酷なプレッシャーの中、17歳で入段した飯田初段に院生時代を振り返ってもらいました。

### 手記



飯田純也初段

私は、中学一年生の時に、プロ棋士養成機関である「院生」に入り、プロを目指しました。院生は10級から1級、その上に初段格があり、初段格で12勝4敗の成績なら、プロ合格することができます。

私はもちろん10級からスタートしました。私は院生経験の中で、囲碁は技術も大事だが考え方の持ち方がかなり大事だという考え方になっていったのですが、それはこの時10級からスタートした直後8連勝し、6連敗した経験が大きく関わっているかも知れません。

8連勝できたのは幸運でした。初めて院生になれて張り切った気持ちで打ったことも良い方向に働いたと思います。しかし私はこの時あと何連勝できるだろうと震えるだけで、勝因を振り返り、自分にも落ち度があったかも知れないと検討をすることをしませんでした。このような心境では自分の実力は出せません。次の対局は負けました。自分が急に弱くなったように感じ、自信は崩れ落ちました。しかし、ここでも、プロ間近ならまだしも自分は10級なんだから、今は強くなることを考えよう、と前向きに捉え直していたならば、ここまで悲嘆に暮れることは無かったでしょう。その時はそのように冷静に捉え直すことはできませんでした。しかし、院生の間にはたくさんの方の対局を経験する中で、いい加減な気持ちで碁を打つと負けてしまう、というのを少しずつ学んでいきました。段々と自分の碁が打てるようになって、勝率も上がっていききました。

今でも気が緩んだ碁を打つてしまうことがあります。その時は、自分はまだまだだだなと反省させられます。しかし、院生の最初の頃と比べれば、いい加減な気持ちで碁を打つことが減り、負けて落ち込んだから立ち直るのも早くなっているようです。自分を成長させてくれたと同時に、碁の深さにも気づかされた院生経験でした。

### 碁ランテニア

全国の囲碁ファンの人々に、本因坊秀策生誕の地・因島で楽しいひとときを過ごすこともらうため、日本棋院因島支部・因島囲碁協会では「碁ランテニア」の出前対局を行っています。初心者から有段者まで、さまざまレベルで対局が楽しめます。ご宿泊のお客さんも、日帰りのお客さんも大歓迎です。平成25年度は、264人の利用がありました。

これまで、碁ランテニアの活動は因島地域に限られていましたが、昨年8月に発足した関西棋院尾道支部により、尾道本通り商店街を会場にして、碁ランテニアも行われています。

